

戦国時代の鹿野を取り巻く政治・軍事情勢

- 1506 ● 02月23日 現／伯耆山名家内乱。尼子氏介入中（「日御碕神社文書」ほか）
 - ▼**尼子×因但山名から** ↓**但馬山名（反尼子）×因幡山名（親尼子）**
- 1512 ○ 10月26日 但馬に政変。親尼子政権樹立（「山内首藤家」ほか）
- 1512 ○ 11月21日 後／年内、反尼子派の因幡守護山名豊重横死（「閩閩録」ほか）
- 1543 ○ 08月01日 反尼子の祐豊、親尼子派久通を布施一城へ追い込む（「閩閩録」）
- 【**天文13年（一五四四）**】
 - ▼**尼子派**にとって**も反尼子派**にとって**も必須の城**
- 04 〽 05月 尼子晴久、大崎・**鹿野城**を抜き鳥取城を窺う（「陰徳太平記」巻13）
- 06月11日 現／但馬祐豊、尼子氏に和睦を懇願し交渉中（「吉川家文書」①）
- 【**14年（一五四五）**】
- 02月 日 中旬／武田山城守、但馬山名と結び鳥取城を強化（「稻場民談」）
- 【**15年（一五四六）**】
- 05月25日 前／武田山城守と因幡守護山名久通の和平成る（「眞継文書」）
- 06月28日 伯耆馬野山橋津川合戦（「佐々木系図」戦死武功書出）
 - ★ 多治見合戦 山名祐豊、同久通父子殺害（「近藤彦六左衛門覺書」）
 - ▼**尼子軍鹿野へ至るも間に合わず。同城破却の要因発生 ↓ 古城化？**
- 12月05日 祐豊、弟豊定の近日中の因幡派遣を予告（「舊中村伊曾吉所藏文書」）
- 【**16年（一五四七）**】
 - ▼**以後の因幡山名は但馬の傀儡政権**
- 04月28日 現／山名豊定、因幡で活動中（「山田家古文書」）
 - ★**以後、対尼子用代替拠点構築の緊急性発生 ↓ 新鹿野城？**
- 【**永禄03年（一五六〇）**】
- 06月27日 前／豊定後継棟豊②（祐豊息）着任 伯耆出陣計画（「舊宮本文書」）
- 【**04年（一五六一）**】
- 05月16日 山名棟豊卒す 享年18（「大智院宗派之口面事」）後継に豊數③
- 【**05年（一五六二）**】 ▼**毛利×尼子**
- 07月28日 元就、尼子攻めのため出雲赤穴へ着陣（「閩閩録」遺漏）

1

- 【**永禄06年（一五六三）**】 ▼**毛利×但馬山名から** ▼**毛利×但馬山名十尼子**
- 03月08日 現／武田高信、因州の屋形と係争中（「横山家文書」②ほか）
- 11月15日 前／但馬山名、毛利との提携を破棄し尼子を支援（「閩閩録」②）
- 12月11日 前／山名源十郎豊數ら、布施天神山城から**鹿野**へ退去（「譜録」）
- 【**07年（一五六四）**】
 - ★**鹿野**に荒神山（毛利方）を警戒する必要性発生
- 07月22日 **鹿野麓合戦** 毛利軍、城を陥落させられず（「閩閩録」②）
- 08月23日 祐豊、私部から徳吉へ陣替、氣多郡海岸部を窺う（「小寺家文書」）
- 【**08年（一五六五）**】
- 03月 日 源十郎豊數後継「豊儀」（源七郎カ）が**鹿野**で活動中（「譜録」）
- 11月 日 前／山名勢、**鹿野**から退去か（加知彌社再興 ↓ 加知彌神社文書）
- 【**09年（一五六六）**】 ▼**毛利×尼子**
- 11月21日 尼子氏、毛利に降る（「閩閩録」①）
 - ★**改修最適期にして且つ 必要性十分な時期**
- 【**12年（一五六九）**】 ▼**毛利×尼子党（織田）**
- 05月 日 ▼**尼子勝久、但馬に拳兵Ⅱ第一次尼子家再興戦**（「陰徳太平記」）
- 06月07日 現／湯原元綱、**鹿野**・諸寄在番中（「閩閩録」③）
- 【**元龜01年（一五七〇）**】
- 11月15日 高信、**鹿野新山**から小畑へ出撃し交戦（「山田家古文書」）
- 【**02年（一五七一）**】 06月14日 元就卒す
- 05月15日 前／荒神山山城矢田幸佐、尼子方に通じ没落（「山田家古文書」）
- 【**天正01年（一五七三）**】 Ⅱ第二次尼子家再興戦
- 08月01日 鳥取城下の合戦（「閩閩録」③）
 - ★**鳥取たのも崩れの祖型か**
- 09月23日 毛利氏、野村士悦に**鹿野**在番を命じる（次頁下段①）
- 09月22日 輝元、鹿野在番中の野村士悦に**鹿野古城**再建を命ず（次頁下段②）
- 12月27日 前／高信、鳥取城を尼子党・山名豊國へ引き渡し退去（「久芳文書」）
- 12月11日 吉川元春、野村士悦の**鹿野**在番を明年三月までとす（「閩閩録」③）
- 【**03年（一五七五）**】 ▼**毛利十但馬山名×尼子（織田）**

- 04月15日 前／毛利氏、豊國へ氣多郡を割讓（「山田家古文書」）
- 05月28日 山名豊國斡旋による藝但和睦、正式発効す（「吉川家文書」）
- 10月14日 前／南條宗勝急死。元清・元續兄弟ら起請文提出（「吉川家文書」①）

【天正04年（一五七六）】▼毛利十豊國×尼子党・織田十豊國（豊國二股）

- 02月04日 氣多郡宮吉合戦（「知新集」所収粟根家文書）
- 04月24日 前／豊國、高信を鶴尾城に殺害（「閩閩録」③「渡辺助允覚書」）
- 05月07日 前／尼子党、若桜から退去（「吉川家文書」）翌及年、上月に滅亡
- 07月03日 前／南條兄弟逆意。山田重直、福山次郎左衛門尉を殺害（「譜録」）
- 10月10日 前／毛利、豊國へ鹿野城返還を求め番衆人選を進む（「閩閩録」②）
- 11月26日 輝元、湯原元綱へ鹿野在番を命ず（「閩閩録」③）

【07年（一五七九）】▼織田十豊國×毛利十豊國（豊國二股）

- 05月18日 前／豊國、風説に託け武田豊信を大義寺に殺害（「閩閩録」③）
- 09月01日 南條元續、毛利と決別。山田重直、鹿野城へ避難（「山田家古文書」）
- 【08年（一五八〇）】▼織田×毛利（09月21日以後）

- 06月05日 前／秀吉、鹿野城を降し龜井茲矩以下を籠める（「利生護国寺文書」）2
- 09月11日 秀吉、鹿野城留守居龜井茲矩に普請・用心を促す（「龜井家文書」）
- 25日 鹿野某、鹿野城出奔、荒神山に籠城（「藩中諸家古文書纂」）

【09年（一五八一）】

＊鹿野に荒神山を警戒する事態発生

- 01月15日 前／龜井茲矩、調略で宮吉城を寝返らせる（「三卿古文書纂」ほか）
- 07月12日 秀吉、帝釋山へ鳥取城攻めの本陣を置く（「石見吉川家文書」ほか）
- 08月16日 前／南條軍、荒神山攻城略（「藩中諸家古文書纂」）
- 17日 秀吉、羽衣石へ援軍一万を送り鹿野城へも出動要請（「龜井家文書」）
- 10月25日 鳥取落城。秀吉、鹿野・三徳山経由で伯耆救援（「信長公記」）

【10年（一五八二）】

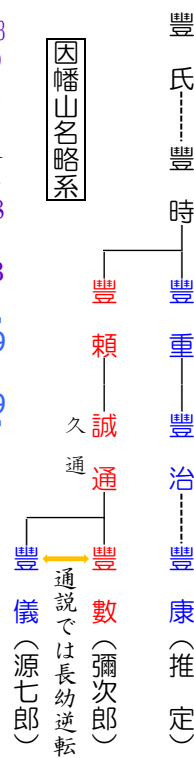
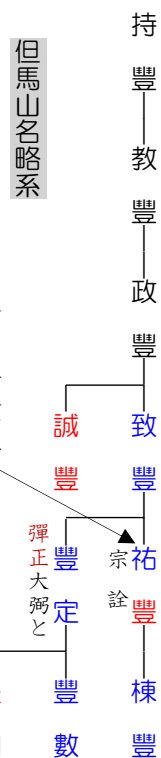
- 09月29日 前／吉川軍、羽衣石・岩倉を攻略し東伯耆掌握（「山田家古文書」）

【12年（一五八四）】

＊鹿野に東伯耆を警戒する必要性発生

- 春 頃／京藝領域画定交渉妥結。以後南條兄弟帰国（「毛利家文書」他）

*記号内訳→●年次明記史料 ○年次不記史料 ■編纂物 ★高橋判断



1573 ①天正01年08月23日「09/29」
 今度因州鹿野御番の事これを仰せ付けらるゝに依り、鹿野の内において三百貫地これを遣わされ候。御一行の儀、望みに任せこれを認め遣わされ候。然る上は、この節御番その節を遂げられ、隙明け候共、自然彼の表御用の時は、方角に随い馳走遂げらるべきの由、よくよく申すべき旨に候。恐々謹言。

- 八月廿三日 國司 右京亮 元武判
- 栗屋 右京亮 元勝判
- 児玉三郎右衛門尉 元良判
- 栗屋 掃部助 元眞判
- 桂左衛門大夫 就宣判
- 野村信濃入道殿

野村士悦の鹿野在番は、天正01年12月11日付吉川元春他2名連署書状寫（「閩閩録」③—622—29）によって、明年03月までと定められている。従って、士悦の鹿野在番の任が、この日付以前に発生していた事が判る。

1573 ②天正01年09月22日「10/27」
 因伯仕切の城として鹿野古城取り付けるべく候と申す事に候。それに就き最前申し聞かせ候如く、彼の城在番すべき事肝要に候。普請の儀、則ちに出来すべく候の條、其方支度油断有るべからず候。なお、兩三人より申さるべく候。謹言。

- 九月廿二日 輝元御判
- 野村信濃入道殿

戦國時代の山名氏は、苗字は共にするも、敷いた路線は完全に別物だった。青字が反尼子、赤字が尼子派として、互いに存亡を賭けて熾烈に戦う歴史を繰り返した。